

令和4年度 山城地方学力向上を 目指す教育実践交流会 を開催しました



確かな学力の育成を目指して、山城地方の小・中学校における学力の充実・向上の取組を交流し、その一層の推進を図るため、「山城地方学力向上を目指す教育実践交流会」を開催しました。

管内の教員が集まり、「主体的・対話的で深い学び」を充実させる実践発表を受けて交流したり、「やましろ授業スタンダード」等に沿った授業実践(VTR)をもとに交流協議を行ったりして、授業改善の視点や各学校の授業改善をどう進めるか等について考えました。

日時 令和5年2月10日(金)午後1時から同4時30分まで
 主催 京都府山城教育局 山城地方学力向上対策会議
 会場 京都府総合教育センター
 参加者 管内小・中学校学力担当職員
 (学力向上推進担当教員、研究主任、教務主任等)
 管内各市町(広域連合)教育委員会担当指導主事、
 各地方校長会学力担当者等 計125名



日程

		受付	
13:00	全体会	開会行事 課題提起	
13:30	分散会 I	実践事例発表 実践事例発表 13:40~14:25 質疑・応答、意見交流 14:25~14:35 指導・助言 14:35~14:45	実践発表校 【第1分散会】 宇治市立大久保小学校、木津川市立木津小学校 【第2分散会】 城陽市立寺田南小学校、久御山町立佐山小学校 宇治田原町立宇治田原小学校 【第3分散会】 宇治市立木幡小学校、精華町立川西小学校 【第4分散会】 京田辺市立培良中学校、相楽東部広域連合立和東中学校 【第5分散会】 八幡市立男山東中学校、井手町立泉ヶ丘中学校
14:45	移動・休憩		
15:00	分散会 II	「やましろ授業スタンダード」等を活用した授業実践VTRをもとにした交流協議 【小学校分散会】 八幡市立橋本小学校 国語科 第2学年 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう「お手紙」 指導者 村田 一生 教諭 【中学校分散会】 宇治市立榎島中学校 理科 第1学年 [エネルギー] 光・音・力による現象 1章 光による現象 指導者 安野 哲生 教諭	
16:50	閉会行事		

課題提起

教育実践交流会の目的である「確かな学力の育成」を目指してどのように「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を進めていくのか、課題提起を行いました。

山城教育局と山城地方学力向上対策会議では、「自ら学びをマネジメントする力を育む」ことを意図した「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた授業づくりのエッセンスを盛り込んだ「やましろ授業スタンダード」の改訂に向けて協議しています。その内容を踏まえ、授業改善の3つの視点として、

「単元・題材を見通した1時間の授業づくり」

「振り返りの充実 非認知能力の育成を意図」

「ICTの効果的な活用と検証」

を提言しました。

自ら学びをマネジメントする力を
育む授業をつくるために

- 1 単元・題材を見通した1時間の授業づくり
- 2 振り返りの充実 非認知能力の育成を意図
- 3 ICTの効果的な活用と検証

分散会 I

5つの分散会に分かれ、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる実践について、「学力向上を目指す実践事例集第31集」第二部に掲載された11校が実践発表しました。



第1分散会

実践事例発表校	発表者	テーマ
宇治市立大久保小学校	天野 陽 教諭	基礎学力向上のための「全員が参加する授業」を目指して
木津川市立木津小学校	中西 竜也 教諭	自律と協働に基づく確かな学力の育成 ～言語能力の育成を目指した教科横断的な学びの展開～

第2分散会

実践事例発表校	発表者	テーマ
城陽市立寺田南小学校	三島 克也 教諭	「主体的に学びに向かう児童を育成するための家庭学習へのアプローチ」 ～「けふれ学習」を土台に～
久御山町立佐山小学校	長谷部 江美 教諭	「主体的に考え、情報を活用できる子どもの育成」 ～課題意識を高めるための授業実践～
宇治田原町立 宇治田原小学校	和田 博文 教諭	相互につながりあいながら、主体的に学び考える 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に 充実させる授業づくりの研究 ～より伝わりやすい成果物を制作していく、国語科の 「書く」力の育成～

第3分散会

実践事例発表校	発表者	テーマ
宇治市立木幡小学校	飯田 隆志 教諭	「学び合いを通して、思考力・判断力・表現力を はぐくむ授業」 ～算数科での端末機器の効果的な活用によって～
精華町立川西小学校	村田 竜司 教諭	「算数科における、ICT を効果的に活用した 個別最適な学習の実現」 ～全ての児童に確かな計算技能を獲得させることを目指して～

第4分散会

実践事例発表校	発表者	テーマ
京田辺市立培良中学校	花原 大輔 教諭	ICTを効果的に活用した授業改善の工夫および 「めあて」と「振り返り」の研究 ～やましろ授業スタンダードの徹底をめざして～
相楽東部広域連合立 和東中学校	西山 祐也 教諭	全校で目指す学力向上

第5分散会

実践事例発表校	発表者	テーマ
八幡市立男山東中学校	佐藤 誠治 教諭	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた ICTの活用
井手町立泉ヶ丘中学校	濱崎 芳彦 教諭	ICT 機器を活用した授業改善の推進

分散会Ⅱ

小・中分散会に分かれ、「やましろ授業スタンダード」等を活用した授業実践VTRをもとにした交流協議を行いました。

【小学校分散会】

八幡市立橋本小学校 村田 一生 教諭

国語科 第2学年 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう 「お手紙」

【中学校分散会】

宇治市立榎島中学校 安野 哲生 教諭

理科 第1学年 [エネルギー] 光・音・力による現象 1章 光による現象

橋本小学校の実践では、単元を見通した「単元を貫く問い」が設定され、授業においてめあてを児童から引き出し、ICT を効果的に活用しながら1時間の授業のゴールへ到達しようとする児童の姿が、榎島中学校の実践では、前時の振り返りで新たな問いを見だし、それを受けて本時のめあてを設定し、指導者の周到な準備のもと課題解決に向けて主体的に学ぶ生徒の姿を見ることができました。

その後のグループ協議では、それぞれがメモに書いた視点を交流し合い、その視点での効果的な手立てを考え、交流しました。



参加者「振り返りシート」より(抜粋)

分散会 I・実践事例発表を聞いて、学んだことや今後の参考にしたいこと

各校の基礎学力を向上させる取組を聞き、いかに子どもたちの意欲を引き出すか、どんな力をつけようとしているのか、ゴールが非常に明確であったと思う。そのために学校が一丸となって取り組む様子がとても参考になった。

実践発表を聞いて、学校全体で同じ方向に向かっていくことの大切さを改めて感じた。またどんな小さなことでも、

① つなげる ② 伝える ③ 継続することが大切で、子どもたちのどんな姿を目指すのかを、こちらが明確に持つ必要があると感じた。

すべての教員で授業規律や学級経営の仕方を共有し、全体で確認するというのに感心した。細かく揃えることは難しくても、本校でも、どういう視点を大切にするか、どういうところに気を配ればいいのかを共有できるといいなと感じた。

ICTを活用した授業改善について、学校としてそのうねりを作っていくことの大切さを感じました。個人努力や工夫はもちろん大切ですが、「学校」としての動きを作っていくことでスキルアップをはじめ授業改善や評価の改善にもつながっていくと思いました。

自校のめざす児童像を具体化、明確化して教職員が一丸となって研究を進めていくこと。そのためには日々の学級経営や学習規律が大切であり、全校統一の学習規律を全教員全児童がいつでも意識できるよう取り組むことが必要であると学んだ。また、授業研究の進め方としても、全教員が自分事として捉えることができるような仕組みにしていく必要があると感じたので、今後自校で取り入れていきたい。

自ら学びをマネジメントする力を育成する、具体的な実践例と研究を推進する校内体制が参考になった。個別最適な学びと協働的な学びの一体的に充実させた違った視点を本校に持ち帰り、広めたい。

児童の実態をしっかり客観的に把握してからICT等も活用して授業改善につなげていかなければいけないと思いました。タブレットの効果的な使い方や基礎学力をつける取組が今後の参考になりました。

目指す姿や授業の基準を明確にすることの大切さを改めて感じました。自己調整を促すためには教師からの様々な工夫が必要で、目の前の生徒に合うものは何か、考え続けたいと思いました。



「学力向上を目指す実践事例集(第31集)」に、実践内容を掲載しています。全ての先生方が、手に取り、目を通し、研究推進・学力向上の取組に活用していただけたらと思います。

参加者「振り返りシート」より(抜粋)

分散会Ⅱ・授業動画の視聴や交流協議を通して、学んだことや今後の参考にしたいこと

【小学校部会】

めあての設定の仕方や全体交流の目的、ICTを使い分けるなど、たくさん考える機会となった。本校でも「子どもの声」を大事にしながらい問いを設定していく授業を目指していきたい。

子どもたちが問いを見つけ物語を読んでいきたい、また、文章に着目して「問い」を解決できる場所を見つけたい、と思えるような授業展開だった。「やましろ授業スタンダード」をもう一度見直して、授業の組立てについて考えていきたいと思った。

【中学校部会】

授業者の「子どもを動かす言葉の工夫」が多々見られ、テンポのあるワクワクする授業だった。ほとんど授業者が発せず、子どもたちの思考で進む授業は理想的です。教師自身がワクワクしながら授業を進める必要性も改めて感じた。

次の授業、次回につながる「振り返りシート」に全教科で行うために、学校としてどのように研究を進めていけば良いのか、来年度に向けて意欲を持てた研修だった。

探究心をくすぐる仕掛けがよく考えられていて、素晴らしい授業だなと感じた。振り返りを次の授業につなげられるようなものは、取り入れたいと思う。

やましろ授業スタンダードの視点で交流できたことは、授業改善の視点が明確になり、今後の校内の研究に活かせそうだと感じた。今年度は、自ら学びをマネジメントする力を育成するにあたり、校内でも系統立て、経年でどのように育成していくのか指導計画があれば、より効率的に指導できるなど感じる。ぜひ、校内でも提案していきたい。今日の授業は、問いを見つけ出す目を鍛える視点は、すごく参考になった。また、話合いの練り合いの場面でも選択肢を与えることで、焦点化された話合いになるという可能性を感じることができた。

どのように意欲を持たせ、自ら解決したいと思わせるか、そこがあるとないのでは学習の効果が大きく違う。単元構想、目標の設定、そのための手立て・仕掛けと効果の検証、評価を意識したい。

生徒が「わかった!」「どういうこと?」と言う(呟く)ような授業展開が理想だと感じた。「点数が取れる=楽しい」と思うこともわからなくもないが、「なぜ?」「もっと学びたい!」と思う→自ら学ぶ→点数に結びつく・学習意欲の向上や自己肯定感の向上へとつながることが理想ではないかと感じた。まずは、興味を持たせる仕掛けの引き出しを増やそうと思った。

不思議・知りたい・やってみようなどの内発的な動機からスタートさせることが大切だと感じた。また、振り返りを活用して授業と授業、家庭学習とつなげる意識を持っていきたい。

参加された先生方のアンケートから、深く学んだ満足感や実践に対する意欲の高まりを感じました。ぜひ研修で学んだことを、自校で広め、自校の実践に活かしてほしいと考えます。